

## 認知症ケア高度化事業 事例ワークシート 事例 47

### A 課題の整理 援助者が感じている課題

事例にあげた課題に対して、あなた自身が困っていること、負担に感じていること等を具体的に書いてください。

- ・自分で食事をし始めるのだが、主食を数口食べた後すぐに茶碗を置いてしまい、「もういらない。」と話す。スタッフが介助を行い勧めるも、「もういいわ。」と話す。口元に持っていくと口を開けるが嫌そうな表情をするので、勧めるのが難しい。また、スタッフが一人の時には他者の食事介助もあるため、Aさんに寄り添ってゆっくりとした食事の時間を確保することができない。

#### 【質問】

あなたが最もつらいと感じていることについてもう少し質問したいのですが、ゆっくりと食事の時間を確保できないことのどのような点がつらいのですか？

つらいと感じる原因は、たとえば食事を拒まれることで時間がかかってしまうことによる次の仕事への時間的焦り？または、Aさんの嫌なことを強要していること？その他、自分の気持ちの中を整理し具体的な心理状態をあなた自身で振り返るとどのようなことがあると思われますか？

#### 【回答】

質問の内容にもあったように次の仕事への時間的焦りはもちろんのこと、スタッフが1名の時には他の入居者の食事支援や声掛けもあるため、食事の食べ始めから終わりまで付き添うことが困難であること、スタッフが付き添っていない時間ができることによって、さらにAさんの食事に対する意欲が低下していることを、分かってはいるもののどうしようもないという思い、ご飯を食べてもらえなければ栄養面や体重減少、体調の悪化など様々なことへとつながる可能性があることから食事摂取を強要してしまっている点などです。

### B 課題の整理 援助者が想定する対応・方針

あなたは、この方に「どんな姿」や「状態」になって欲しいのですか。

- ・楽しい食事の時間を過ごして欲しい。

#### 【質問】

あなたがイメージする「Aさんにとって楽しいお食事」とは、どのようなものですか？

#### 【回答】

自分が食べたいと思える環境で自分の好きなペースで、好きな順番で、周りの方たちとの会話を楽しみながら食事ができること。

- ・Aさんのペースで食事をして欲しい。

#### 【質問】

Aさんのペースとはどのようなペースですか？それはどのようにすれば明らかになりますか？

#### 【回答】

現在スプーンを使用してもらっていますが、元々箸を使っていた方なので、スプーンで食べるペー

スは口に多くの量を運ぶこととなってしまう、本来求めているペースでないのかもしれませんが。また、スタッフに介助をしてもらってペースも早過ぎたり遅過ぎたりとばらつきがあるため、Aさんに一口ごとに聞きながら口へ運ぶようにしたり、また、自分で食べられるのであれば、きちんとした環境や本人に合った食器類、テーブル・椅子などの見直しを行うことで明らかになる可能性があります。

**【質問】**

「自分が食べたいと思える環境」「好きなペース」「好む対人関係や会話の内容」についてのアセスメントは進みましたか？

また、Aさんに合った食器・テーブル・椅子の選定はできましたか？

**【回答】**

現在は全介助で食事をしています。また、私自身もユニットが離れてしまい、Aさんと関わる事が全くないに等しい状態ですので、「自分が食べたいと思える環境」「好きなペース」「好む対人関係や会話の内容」について、私個人が分かる範囲での回答です。

「自分が食べたいと思える環境」について...想像の範囲ですが、家庭で食事をしていた時のような環境だと思えます。ただ、家ではどのように食事をしていたかについては、家族より聞き取りを行っていないため、私個人は分からないというのが現状です。

「好きなペース」について...一口を口に入れてよく噛んで、飲み込むという一連の動作が終わり、次の一口へと口を開ける、という一連の動作を、急かされることなく行えるペースだと思います。

「好む対人関係や会話の内容」について...以前、運転手をしていたという職歴から、会話の内容は運転手時代の話が好きようです。食事や入浴についても以前はスタッフからたずねると事細かに教えてくれました。話すことは好きなようです。

Aさんに合った食器・テーブル・椅子の選定についてですが、現在全介助にて食事をしている状態なので、特に行っていません。

- ・自分で食事ができるようになって欲しい。

**【質問】**

Aさんが「自分で」食事ができるようになることは、Aさんにとってどのようなメリットがあると考えますか？具体的な内容を書いてください。

**【回答】**

- ・自分の好きなように食事ができることで、食欲が増進する可能性がある。
- ・自分で食事をする事で様々な意欲が向上し、Aさんのやる気にもつながる可能性がある。
- ・周りの目（主に他入居者）を気にすることが減る。（例えば、食べさせてもらっているという思いなど、Aさんのプライドを守ることに繋がる）

**【質問】**

- ・好きなように食べる事以外の方法で、食欲が増進する可能性はありますか？
- ・現在、食事の行為はAさんのプライドにどのような影響を及ぼしていますか？他のスタッフとあなたの認識は共有する必要があると思いますか？  
また、必要があると思われるが共有されていない場合、今後どのようにしていこうと思いますか？

**【回答】**

・日中の過ごし方について見直しを行うことで、食欲が増進する可能性はあると思います。例えば、散歩を促したり、レクリエーションに参加したりということです。ただ、Aさんが希望するかどうかはまた別だと思います。

・運転手時代の友人が施設を訪れるような人望の厚い方なので、若い時にはかなり頼りになる存在だったと推察します。介助で食事をしているということは、Aさんのプライドを傷つけることになっているとは思いますが。自分で食べたくても食べられないといった絶望感も生み出している可能性もあります。これらのことはスタッフ間で共有し、それを踏まえた上で介助を行う必要があると思います。また、まだ情報の共有が不十分だといえるので、ユニット会議で議題に挙げ、スタッフ間に周知していこうと思っています。

そのために、当面どんな取り組みをしたいと考えていますか(考えましたか)。

- ・食事摂取量を把握して、Aさんに合った食事が確保できているのかを栄養士も交えて確認する。代替食の必要性はあるのか検討する。食事形態をもう一度検討する。

**【質問】**

Aさんに合った食事量・また食事の質(形態なども含めて)をつかむために、栄養士との情報交換のほかにもどのような情報が必要だと思いますか？

**【回答】**

他スタッフとの情報の共有(例えば、摂取量やペースなど)。家族からの聞き取り(どういうものを好んで食べていたか等)。

- ・自助具等を使用して、自分で食べられるような取り組みを行う。
- ・Aさんの「いない。」と話す本当の原因を見つける。

**【質問】**

食事の時の姿勢はどのようになっていますか？その情報は職員間で共有されていますか？

**【回答】**

キャスターの付いている椅子に腰掛け、両足は床についています。茶碗を左手に持ち、右手でスプーンを持っているが、スプーンを口元まで持っていく筋力が低下しているため、頭を垂れる状態でうつむき加減です。職員間では共有されています。

**【質問】**

「頭を垂れている状態」というのは食事にあまり適していない姿勢だと思われそうですが、スプーンなどの食器類の工夫のほかに姿勢を保持する(体幹を保持する)ような工夫・道具の利用の検討はなされていますか？

このことは専門職(理学療法士や作業療法士)へ相談していないということでしたが、今後相談できる可能性はありますか？

**【回答】**

スタッフから管理栄養士、看護職員、生活相談員、ケアマネジャー等、各専門職への働きかけを行うことにより理学療法士や作業療法士がいる病院などに相談できる可能性はあります。

姿勢や体幹を保持するような道具などの工夫についてですが、クッションを挟むぐらいで、他の働きかけについては、知識不足のため、行ってはいませんでした。

**【質問】**

Aさんの食べ方に対するこだわりは(たとえば、「箸でなければ嫌だ」「スプーンは使いたくない」など)ありますか？

**【回答】**

スプーンが嫌だというわけではないが、好まないような印象はあります。(理由は、自分がもう無理だと思うまでは箸を使用して食べようとしていたため)

**C 本人の状態や状況を事実に基づいて確認してみよう**

困っている場面で、本人が口にする言葉、表情やしぐさ等を含めた行動や様子等を事実に基づいて書いてください。

- ・「もういらない」...「もう少し食べてください」と話すも、右手を挙げて「もういいわ。」と言う。口元に運ぶと口を開けるが食べたくなさそうな嫌そうな表情を浮かべ、スタッフの介助にて一口食べた後、すぐに再度右手を挙げて「もういいわ。」と繰り返し話す。

**【質問】**

その時にあなたはどのように返答しますか？返答する内容の根拠付けはどのようなものですか？(たとえば上述の内容では「もう少し食べてください。」となぜ言っているのか)その内容は職員間で共有されていますか？

**【回答】**

「もう少し食べてください。」という摂取を促す声掛けのほかには「ご飯を食べないと体調が悪くなってしまいますよ。」等、という体調に関すること、あとは食事量によっては「分かりました。」という受容的な言葉。根拠としては、上記のようにご飯を食べなければ栄養面や体重減少、体調の悪化など様々なことへとつながる可能性があること、食事のある程度の量(全体の2/3程度)食べなければならぬ(自分で食べていた頃は全量食べられていたため)という私個人の思いからです。内容としては前述の場合は共有されているものの後述の場合には共有されていません。

- ・食事が始まり、食器を手渡すことで数口は自力で食べるが、少し経つと茶碗を置きお茶や汁物を飲んで食事を終わらせてしまう。(「もう食事は終わったよ」という合図を送る)

**【質問】**

食事の前はどのような状態で過ごしているのでしょうか？(「ベッドで寝ている」「お茶を飲んでいる」など...)食事前にしていることで何か配慮などありますか？

**【回答】**

自分の居室で過ごしており、新聞を読んだりテレビ観賞をしたりしています。なるべく配膳の10分から5分前にリビングへと誘導し、お茶を飲んでもらうなどして食事を待ってもらっています。

**D 課題の背景や原因等の整理**

本人にとっての行動や言葉の意味を理解するために、別紙の展開図に記入してから、課題の背景や原因として考えられることを書きだしてみましよう。

- ・スタッフが食事の時に十分な付き添いができていないことから、食事に対する意欲の低下や食欲の低下を招いている。併せて、手先の細かい動きができなくなっており、食べこぼしも目立つこ

とから、より一層食べる意欲の低下を招いている。

- ・ 運転手という経歴から、決まった時間に空腹感がないのではないか。
- ・ 自助具等の物品や環境整備が整っていないことから、Aさんの意欲を妨げている。

**【質問】**

思考展開シートを記入した上で、上記以外の原因や背景で気づいたことがありますか。

**【回答】**

食事に関してこだわりがなく、空腹を満たす程度のものであった可能性があります。現在は部屋で過ごしていることがほとんどなので、食欲もなく、食事に対する意欲もわいてこないのではないのでしょうか。

**【質問】**

日中の過ごし方と食事にはどのような関係があると思いますか？

また、食事以外の生活全体に対する意欲などはどのように評価していますか？

**【回答】**

私個人もそうですが、一日中横になっていたり眠っていた場合には食欲がわきません。日中活動的に過ごすことによって、食欲がわいておいしい食事ができると思います。また、日中を活動的に過ごすための働きかけが私たち専門職にとって、とても重要なことになってくると思います。本人がいくら横になりたいからといって、それをそのまま受容していたのでは、生活のメリハリといった面での働きかけが不十分だと思います。

食事以外の生活全体に対する意欲についてですが、全般的にかなり低いと思います。食事と入浴の時以外は自室で過ごしており、自室ではテレビか新聞を見て過ごしています。立って歩くこともなくなり（下肢筋力の低下から）スタッフもナースコールで排泄の訴えがあった時や水分提供時ぐらいしか訪室しません。何かをしようという働きかけさえも怠っており、「本人の希望だから」という言葉で片付けていたと思います。

**E 事例に書いた課題を本人の視点に置き換えて考えてみよう**

**ここで、この事例を本人の立場から、もう一度考えてみましょう。**

本人の言葉や様子から、本人が困って（悩んで）いること、求めていることは、どんなことだと思いますか？

- ・ 以前のように自分のペースで食事がしたい。
- ・ 上手に口に運べるような物品の工夫をして欲しい。
- ・ 自分でご飯をうまく食べられないもどかしさや悔しさを分かって欲しい。
- ・ 三食決まった時間ではなく、空腹時のおやつ提供や食事時間の変更などの工夫をして欲しい。

**【質問】**

ここまで（Dまで）のワークシートと思考展開シートを記入した上で、上記以外の課題を改めて考察して、Aさんの視点から課題と思われることが新たにありましたか。

**【回答】**

空腹を感じる事が少なくなっているので、食事量の調節や食事回数の工夫をして欲しい。

## F 課題解決に向けた 新たなアイデア

あなたが、このワークシートを通じて思いついたケアプランなど、新しいアイデアをいくつかでも書き出してみましょう。

- ・自助具の購入やテーブルの高さの調節を行い、Aさんに合った、食事を取りやすい環境整備を行う。
- ・食事の形態を見直すとともに、食べやすい食品の工夫やAさんに合った食事量の範囲で、空腹の時間ができるようなアセスメントを行う。
- ・機能訓練指導員と連携して、両手や両手の指先を動かす訓練を実施する。

### 【質問】

Eまでを記入して、新しくアセスメントが進んだ内容やチームで共有できた情報などによって、上述の3点以外で新たに思いついたプランなどがありましたか。

### 【回答】

- ・家族や友人からの働きかけ（面会や一緒に食事をしてもらうなど）
- ・Aさんの生活にメリハリを与えるような活動への働きかけ。
- ・理学療法士や作業療法士による訓練の実施。

### 【全般的な質問】

困難さを感じている事例についてワークシート・思考展開シートに記載していただき、また今回、様々な質問をさせていただきましたが、このプロセスの中で新たな気づきや再度確認できたこと等ありましたか？

### 【回答】

今回の事例検討にあたり、自分がいかにAさんに対して「食事を食べてくれない困った入居者」というレッテルを貼り、介助していたかということを実感しました。食事という生活の一部の部分にだけとらわれていたのかということ、自分の考えの甘さを痛感しました。

自分にはまるでなかった考え、角度からの質問に戸惑いながらも、自分の情報量の少なさ、考察の甘さを実感しました。私個人の働きかけでもAさんの生活を変えることができるんだ、という自信を持ち、今後も様々な入居者と関わっていきたいと強く思いました。

### （助言者の考察）

どの介護現場でも人手は十分とはいえず、多くの介護提供者が、この事例提供者の方と同じような困難さを感じているものと思います。食事は、栄養摂取という側面だけではなく楽しみの場でもあることから、その時間を充実したものにしたいという事例提供者の思いがよく伝わってくる事例でもありました。事例提供者は真摯にこの事例の方のことを考え、悩んでいる様子が分かりました。

今回、投げかけた質問の意図は、2つありました。

1つは介護者の立場から見た課題と、Aさんの視点から見た課題のギャップがどこにあるのかということ整理すること。もう1つは、事例提供者が課題と感じていることを家族や他スタッフや他専門職種と共有しながら一緒に考えてみるということです。

1つ目のAさんの視点からの課題整理という点では、「Aさんのペースで食事をしてもらいたい」という事例提供者の思いはありますが、「では、Aさんのペースって？」という具体的な課題の整理が不足しているといったことが見られるように、全体的に事実の確認が十分とはいええない部分がありました。支援するにあたって、Aさんはどこまでできてどこを支援するのか、どんな環境整備が必要な

のか、などといった事実の確認をしたうえで、支援を進めていくことが基本なのだと思いますが、多くの介護現場で案外不足している部分があるかもしれません。

もう1つは、情報の整理です。「Aさんの思い」を探っていこうとした時に、介護者の思い込みになったり、情報を集めようと思った時に自分の得意な範囲で情報を集めてしまうことになってしまったりはしないでしょうか？同僚がその人をどう見ているか、他専門職から見た時に違った視点があるのではないかと考えた時に、チームとしてその方を支えるということが進んでいくのではないかと思います。

今回、事例提供者の方は、質問に返答していく中で違った視点からAさんのことを確認したり、同僚とAさんのことを話す機会を持ったりするようになったということですが、そのことでさらに生活全般に対する支援が、Aさんの視点で展開するものと期待しております。